



図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1. 学生選書ツアーを実施しました



9月13日(水) MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店にて、学生選書ツアーを実施しました。

学生選書ツアーとは、学生の皆さんが直接書店に出向き、自分の興味・関心のある本や図書館に置きたい本を選ぶ企画です。様々なジャンルの本がある中から、本を手にとって選んでいくのは、楽しい時間であり貴重な体験になったかと思います。今回の参加者は学生4名と職員1名で、45冊の本を選びました。

選書した本は、図書館内に一部紹介文付きで展示しています。ぜひご覧ください。



2. SIST 秋の読書キャンペーン 開催中!

秋の読書キャンペーンの季節となりました。今年は少し趣向を変えて、参加者には学生ホールカフェのドリンク引換券をプレゼントしています。

参加方法は3ステップ!

- ①図書館で本を借りて読む ②コメントカードを書く ③本の返却時に「コメントカード」提出
キャンペーン中に本を読んで、ドリンク引換券をGETしよう!

コメントカード配布・提出期間は、9月22日～11月9日です。お気軽にご参加ください。

*キャンペーンの詳細は、図書館ホームページ(お知らせ)または館内掲示版をご覧ください。



3. 電子ブック試読サービス実施中

紀伊國屋書店が提供する電子ブック「KinoDen」の全文試読サービスを実施しています。期間中は、KinoDen に掲載されている学術図書を中心とした約8万タイトルの電子ブックのうち、約5万タイトルの全文がご覧いただけます。学修や教育・研究の資料として、この機会にぜひご利用ください。

試読サービス期間中のリクエストや利用統計は、図書館で電子ブックを購入する際の参考といたします。

期間：2023年10月2日～12月31日

*アクセス先、利用方法について、詳しくは図書館ホームページ(お知らせ)をご覧ください。

4. 企画展示のご紹介 -図書館コンシェルジュ選書図書-

前期にコンシェルジュを担当した学生6名が、学生目線で選書した本、18冊を展示しています。

特にオススメの本は、コンシェルジュ学生によるPOP付きで紹介していますので、ぜひご覧ください。



5. 本学教員著作物の紹介

○情報デザイン学科 本多明生 先生翻訳
『ポジティブ・シフト ～心理学が明かす幸福・健康・長寿につながる心の持ち方』
キャサリン・A.サンダーソン著、
ディスカヴァー・トゥエンティワン、2023.6
所在：展示架 159/Sa62

○情報デザイン学科 紀ノ定保礼 先生共著
『数値シミュレーションで読み解く統計のしくみ
～Rでためしてわかる心理統計』
小杉孝司ほか著、技術評論社、2023.9
所在：展示架 140.7/Ko89

読書への羅針盤

芦澤 恵太 先生(コンピュータシステム学科) に聞く

「思い悩まず行動第一」



今回は、今年コンピュータシステム学科に着任された芦澤恵太先生にお話を伺いました。

芦澤先生が専門としている「数値調和解析」とは「コンピューターを用いてデジタル画像を構成する信号の見方を例えば波に変えることで、視認性に基づいた情報の取舍選択を可能とする研究分野のこと」だそうで、画像圧縮などの技術に生かすことが出来るそうです。

先生がこの分野を専攻したきっかけは大学院在学中でのこと。当時、先生は「モデリング」というコンピューターを使って様々な現象をシミュレーションする現在とは違う分野を研究していました。コンピューターによるシミュレーションで予測は可能だが、当時の研究対象であった「伝染病」などのシミュレーションは確かめようがなく、研究に少し物足りなさを感じていたそうです。そこで「数学がダイレクトに問題解決に繋がり役に立っている実感が欲しい」という思いから今の研究に魅力を感じて研究室を移ったそうです。

そんな先生ですが、幼少期はどう過ごされていたのでしょうか。先生の幼少期は身体が弱く、小学2年生まではよく家で NHK の教育番組を見る日を過ごしていたそうです。小学5年生の頃には楽しく学校に通いながら、『ズッコケシリーズ』をよく読んでいたそうです。『ズッコケシリーズ』と聞くと皆さんも幼少期に読んだことがある人がいるのではないのでしょうか。いつもの日常とは少し違った不思議な出来事に巻き込まれていく3人のやり取りはそれぞれの

個性が生かされていて面白い作品です。

次に高校、大学時代に読んだ本のことも伺いました。大学3年生の時に読んだ『脳を鍛える』という立花隆さんの作品に衝撃を受けたそうです。脳の凄さについて考えさせられる本でその後職場が変わってもずっと持ち歩いているとても思い入れのある本だそうです。

また最近読んだ本では、宇佐見りんさんの『推し燃ゆ』という作品。先生は芥川賞作品をよく読むとのこと、最近では「推し活」という言葉が流行った背景からこの本を読まれたそうです。本学の学生にオススメしたい作品も挙げてもらいました。ヨシタケシンスケさんの『りんごかもしれない』という絵本です。りんご一つから予想もつかないような可能性が出てきて「研究するという面白さを教えてくれる本」なので、皆さんも是非読んでみてください。

最後に本学の学生の印象を伺いました。担当した講義の受講者たちは能力があるのに「自己肯定力が低めの人が多い」というのが印象で「もっと自信を持ってほしいのに」とのこと。「まずは、若者らしい勘違いでもいいから自分是可以する！と自分に言い聞かせて、もっとわがままに勉強すればいい」と仰っていました。芦澤恵太先生、お忙しいなか今回は興味深い話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。

【所在】「りんごかもしれない」西閲覧室 726.6/Y92

インタビュー・記事：情報学部1年 金澤大基

私の選んだ一冊

『スイッチ 悪意の実験』 潮谷 駿著

大学に通う小雪は友人たちに誘われ、アルバイトをすることになる。《押せば他人が破滅するスイッチ》を持って暮らすこと。誰も押さないはずだったが、小雪は思い知らされる。最初はスイッチを押すか、押さないかの物語だと思っていたが、予想外な出来事や、事件を通してミステリーに発展していく。予想外な展開が多くスラスラと読めるミステリー長編です。是非読んでみてください。

情報学部1年 増田大夢

『マスカレード・ゲーム』 東野圭吾著

解決の糸口すら掴めないような3つの殺人事件。捜査によって判明した共通点は、その殺害方法、そして被害者は皆過去に人を死なせた事のある人物だったという事。どうしても犯人を捕まえたい警察とホテルとしての決して譲る事の出来ないプライドとがせめぎ合う事で生まれる緊張感が読み手側にも伝わり、読んでいてとても気持ちのいい小説でした。特にラストは驚きの展開が待ち受けているので、興味のある方は是非読んでみてください。

情報学部1年 竹下冬馬

推 薦 図 書

『白鷹伝』(祥伝社), 『夢をまことに』(文藝春秋) ほか
山本兼一著

今回紹介する本のジャンルは、歴史小説です。理系の大学で、なぜ“歴史”と思うかもしれません。このジャンルを選んだ理由の一つは、「私自身が、歴史が好きだから」です。もう一つの理由として、生きていくための知恵や、時には科学にも役立つ知識などを、歴史から学ぶことが多々あり、そのヒントが見つかるからです。数多ある小説の中から読みたいものを選ぶとき、作家推しで選ぶことが良くあります。たくさんの作家の中で、間違いなく推せるのが、今回紹介する山本兼一氏です。この作家の名前を知らない人でも、「火天の城」や「利休にたずねよ」といったタイトルは、映画にもなったので聞いたことがあるのではないのでしょうか。この作家は、歴史的には、表に名前が出ない職人を描いた作品を多く残しています。作品を上げるために文献調査をする作家は多いですが、山本氏は、現在の職人に話を聴き、弟子入りすることもあったそうです。デビュー作でもある「白鷹伝(祥伝社文庫, 2007年)」は、戦国武将の浅井長政に仕えた鷹匠(後に織田信長、徳川家康の家臣となる)の生き様を描いた作品である。鷹匠という裏舞台の人物に対する文献は、ほとんど残っていないため、物語の大部分は創作になるが、現在の鷹匠に学んだ技術に裏打ちされた鷹匠の技術を紹介しながら、当時の考え方や

人となりや巧みに描いています。これは、丹念にデータを収集し、その結果を精査した上で考察して論文にまとめる工程と同じで、科学に通じるものがあります。もう一つ紹介する作品は、「夢をまことに(上・下巻)(文春文庫, 2017年)」です。この作品の主人公は、江戸時代の鉄砲鍛冶である。しかし、空を飛ばたいという夢を持ちながら、様々な技術を学び、最後は、物理学や天文学の知識がない中で、天体望遠鏡(テレスコープ)を作り上げる物語である。この作品の冒頭で、弟子から「本業以外に興味を持つのはなぜか?」と問われ、「良い道具を作って人を幸せにしたい」と答えています。また、多くのものづくりを成し遂げた後に、ものづくりの神髄ともいえる言葉として、「人への感謝を忘れてはいけない」と主人公が言っています。この作者は、2014年3月に他界しているので、今後、新しい作品に出会うことはありません。しかし、歴史好き、ものづくりが好きという学生にはお薦めです。今回紹介した作品以外も読みごたえがあるので、ぜひ手に取って頂きたい。

【所蔵】

「白鷹伝」文庫/北 913.6/Y31

「利休にたずねよ」楽しむコーナー 913.6/Y31

新着図書紹介

コンシエルジュ選書、学生選書ツアー、土木工学関連図書などが入荷しています!

ハンチバツク
市川沙央著, 文藝春秋世界が広がる英文読解 (岩波ジュニア新書)
田中健一著, 岩波書店はじめて学ぶ映像コミュニケーション
映像メディアを見る・撮る・知る
長野真一編, 福村出版よくわかる最新都市交通の基本と仕組み
これからの新しい鉄道や公共交通
阿佐見俊介ほか著, 秀和システム東京の美しいドボク鑑賞術
北河大次郎ほか著, エクスナレッジ脳の中の過程 解剖の眼 (講談社学術文庫)
養老孟司著, 講談社世界の食卓から社会が見える
岡根谷実里著, 大和書房イロン・マスク Elon Musk
ウォルター・アイザックソン著, 井口耕二訳,
文藝春秋 (上・下巻)リアリティナバーチャル世界をめぐる哲学の挑戦
デイヴィッド・J・チャーマーズ著 / 高橋則明訳,
NHK出版 (上・下巻)すぐに使える After Effects
大河原浩一著, マイナビ出版

新着図書リスト



「本の面白さ」

図書課 浅山香澄

私が本を読むようになったきっかけは、テレビや雑誌にでている素敵な人が何を考え、どのように生きているのかを知りたいという憧れや好奇心からでした。その人の著書やおすすりめしている本を読み、そこからまた読みたい本がでてきて…というような形で、読書の輪が広がっていききました。一冊の本には、エッセイであれば著者の考え

も多いかもしれませんが、SNSやインターネットから得る情報量が多すぎて自分に何か必要かという事が分からなくなってしまうことがあるのかもありません。特に学生時代は将来自分がどのように生きていくか、何をしたいのか沢山悩み考える時期だと思っています。そんな中、ネットやSNSを利用しながらも、少し視点を変えて、じっくり落ち着いて自分と向き合う時間を作りたくなった時、図書館を利用してみるのはどうでしょうか。大学の図書館には理工系の専門書や学術書が数多

や経験を、小説であれば一つの物語を、たった数ミリ、数センチの本の中には、数十分、数十年分の人生や想いが込められています。本を読むことによって、リアルな体験ではないけれど、自分の知らない世界や価値観を広げることができる。そこが本の面白さではないかと感じていきます。

現代では、SNSやインターネットの普及により、情報を得ることが容易くなり、情報量もどんどん増えてきています。そんな時代にあえて読書なんてしなくてもいいじゃないかと思う人

く所蔵されていますが、他にも文芸書、実用書、ビジネス書などの本なども沢山置いてあります。図書館を歩き回り、山置いてあります。図書館を歩き回り、気になった本を手にとってみる。パラパラとめくって面白いなと思ったら、その本を借りて読んでみる。もしかしたら、お気に入りの一冊に出会えるかもしれません。そして、その本の知識がいつかどこかで役に立つときがくるかもしれません。ぜひ気軽に図書館を利用してみてください。

LIBRARY CALENDAR

開館時間： ■ 9:00~18:00 ■ 9:00~20:00 ■ 9:00~16:00 休館日： ■

10月							11月							12月							2024年1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	1	2	・	1	2	3	4	5	6
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
29	30	31	・	・	・	・	26	27	28	29	30	・	・	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	31	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

- 10月9日、11月3日、23日(祝)の開館時間 9:00~18:00
- 10月21日(土)、22日(日)は大学祭、1月27日(土)は定期試験中のため開館 9:00-16:00
- 【休館】 大学祭準備/片付け 10月20日(金)/23日(月) | ● 【休館】 法人全体研修 11月7日(火)
- 【休館】 大学冬期休業 12月27日(水)~1月4日(木)

※開館カレンダーは、状況により変更される場合があります。最新の情報は図書館ウェブサイトをご確認ください。

【編集後記】読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋…秋には様々な表現がありますが、その由来はご存じでしょうか。"涼しくなって灯りの下での読書が捗る"読書の秋のイメージは、夏目漱石が「三四郎」のなかで唐時代の漢詩を引用したことで広まったのだそうです。みなさんにとっての「○○の秋」、調べてみませんか。海外では季節にどんなイメージがあるのか、など興味は広がります。